

## 授 業 科 目 の 概 要

(経済情報学部経済情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門 必修科目	基礎科目	
	現代経済論 I	日本経済の本質を捉えるために必要なテーマを選び、各テーマに関するさまざまな角度からの見解を示し、学生が主体的に自国の経済の全体像を把握できるよう配意しつつ講義を進める。一方的な講義に終始しないよう、学生からの質問には懇切に対応する。また学生の理解度を確認するため随時小テストを実施する。
	経営学基礎 I	この講義では、初めて企業経営について学ぶ受講生に対して、まず、私たちの暮らしと企業とがどのように深く結びついているのかということについて、日々の生活を振り返って理解してもらうことと、これから大学で経営学を学ぶことの意義について考えてみたい。さらに、企業経営の基本的な仕組みについて理解するために、巨大株式会社の特徴や企業活動の目標、経営資源の性質、企業組織について学ぶ。
	情報マネジメント基礎 I	情報技術によって競合他社と差別化を図り競争優位を確立していくことは、現在の経営組織にとって必要不可欠な問題になっている。このため業務の効率化から経営意思決定の支援に至るまで、拡範囲にわたって情報技術が利用されている。ここでは経営と情報技術とのかかわり、なかでも企業経営における情報システム利用の歴史、経営情報システムの目的、理論、構造、活用方法などについて理解し、現代のビジネスパーソンに必要な経営情報処理の基礎知識を学ぶ。
専門 選択科目	基礎科目	
	コンピュータ基礎演習 II	コンピュータ基礎演習 I に続いて、コンピュータ利用の中級コースを学ぶ科目と位置づける。具体的には、表計算ソフトを中心に利用し、表・グラフ・データベースの作成・加工など、実習を通じてデータ処理の実際を学ぶ。受講生が教室の収容定員を超えた場合は、習熟度別に以下の2種類のクラスに分ける。1) コンピュータの操作が比較的得意な学生対象の発展クラス。2) コンピュータの操作が不得意な学生対象の基本クラス(再履修生を含む)。コンピュータ基礎演習 I の成績によるクラス分けを初回ガイダンスで発表し、調整を行いクラスを決定する。
	情報科学 I	社会活動の多くがIT(情報技術)によって支えられている現代情報社会において、ITによって何が可能で何が可能でないのか原理的な知識を備えておくことが重要である。本講義では、情報を扱う際の原理や仕組み、つまり、情報とは何なのかに対する一般的で科学的な理解と、コンピュータにおける情報の具体的な扱い方に関する基礎知識を修得する。特に、情報の表現、情報の伝達、データの扱いに対する諸概念と活用法を中心に学ぶ。
	情報科学 II	本講義では情報科学 I に引き続き、情報を扱う際の一般的な原理や仕組みに対する科学的な理解と共に、コンピュータにおける情報の具体的な扱い方に関する基礎知識を修得する。一連の情報処理手順であるアルゴリズムについて学び、アルゴリズムを用いた計算処理や問題解決、コンピュータ内部での処理の仕組みについて理解する。更に、現代における様々な情報システムの役割や、情報システムと社会との間の関係や構造について議論する。
	経済数学	現代において経済学は科学の一分野であり、それを本質的に学ぶためには数学は言語としてあるいはツールとして必要不可欠なものとして位置づけられる。本授業では、経済学を学ぶ上で必要となる基本的な数学的概念を体系的に理解することを目的とする。具体的には数列やその総和記号等の数学的表記法から、指数関数、ベクトル、微分等の高校数学に含まれてはいるものの必ずしもすべての学生が学んでいない内容について説明を行う。

## 授 業 科 目 の 概 要

(経済情報学部経済情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 選 択 科 目	自然地理学概説 I	地理学の一分野である「自然地理学」は、自然環境のシステムに対応した地形学・気候学・水文学・土壌学・生物地理学など多様な分野から構成される。本講義では、地球システムの基盤を構成する岩石圏の特徴を理解する。そのために地形学でも内作用による地形形成について学習して、我々をとりまく自然環境や自然現象に対する科学的な理解を深めるための第一歩とする。
	自然地理学概説 II	本講義では、地球システムの基盤を構成する岩石圏（地形学）と、それを覆う水圏・気圏（気候学）を中心に学習し、それらの相互作用の結果、どのような自然環境が生み出されるのか、水文・土壌・生物地理に関わる事例も交えながら紹介する。そして、我々をとりまく自然環境や自然現象に対する科学的な理解を深め、“人間圏”と自然環境の相互関係を幅広い視点から考える能力を養う。
	統計基礎	企業活動において適切に情報を扱うことは非常に重要である。得られたデータやグラフの意味を適切に理解する把握力、データから重要な情報を引き出す分析力、分析を元に将来を見抜く予想力、分析を根拠により良い行動を選ぶ選択力、情報を分かりやすくまとめる表現力、統計分析はこれら全ての力の根幹になるものである。この科目では統計的分析の基礎である代表値や散布度を用いたデータの整理・要約、データを分布としてまとめる方法を修得する。講義と課題演習を通してデータ分析に必要な様々な力を身に付ける。
	現代経済論 II	現代日本人として必要な常識および判断力を身につけさせるよう、日本および日本を取り巻く内外の経済情勢についての幅広い知識を教授する。すなわち、①深刻な問題となっている財政を取上げ、税と社会保障の関係、国と地方の関係、公共部門の効率化などの観点から具体的な問題点を抽出し、解決に向けた取組みについて考えさせ、②米欧、新興国などグローバル経済の現況を日本経済との関係を中心に論じ、③人口、環境、資源、食料など今後の中心的な論点となる諸課題について論じる。
	経営学基礎 II	経営学基礎 I に引き続いて経営学基礎 II では、企業経営のしくみに関して組織づくりの考え方や組織構造、意思決定の性質等について理解する。次いで、製品やサービスの開発・生産に関するテイラーやフォードの考え方、また販売についてはマーケティングの考え方を中心的に説明する。さらに、人材活用についての基本的な考え方とキャリア・ディベロップメントや企業文化に関する基礎的な事項について解説し、企業経営の基礎をしっかりと身につける。
	情報技術基礎 I	多様な情報の扱い方やコンピュータの仕組みなどに関する基礎知識の習得を目的とし、学生が情報技術を活用するために備えておくべき基礎的な知識を習得する。講義では、情報技術の初歩的な内容を対象とし、特に情報の諸概念やコンピュータ内部での表現方法、ハードウェアやソフトウェアの役割・機能などについて理解する。
	情報技術基礎 II	データベースやネットワークなど、情報システムを構成するさまざまな機能に関する知識の習得を目的とし、学生が情報技術を活用するために備えておくべき基礎的な知識を習得する。講義では、情報技術の初歩的な内容を対象とし、特にデータベース、コンピュータネットワークの構成および情報セキュリティなどについて理解する。

## 授 業 科 目 の 概 要

(経済情報学部経済情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 選 択 必 修  基 礎 科 目	情報技術Ⅰ	情報化社会と呼ばれる今日に至るまでの情報技術の進歩について概観する。その後、情報技術の中での情報とは何か、その活用能力について学ぶ。それらを踏まえた上で、情報技術（ハードウェア技術、ソフトウェア技術）の概要を学び、現代およびこれからの身の回り（家庭や社会）での情報システムの事例、展望について理解を深める。
	情報技術Ⅱ	情報社会の進展とともに、情報の収集や加工、発信に関与する人たちの倫理的価値観や情報モラル保持の必要性がますます高まってきている。それらを十分に理解するためには、情報に関わる職業と職務内容を同定・理解する必要がある。本講義ではそれらを理解するとともに情報に関するプロフェッショナルとしての使命や職業倫理を学び、望ましい職業観・勤労観について理解を深める。
	情報マネジメント基礎Ⅱ	情報マネジメント基礎Ⅰに続く科目である。ここでは経営における情報の活用について、経営学の主な話題のひとつである意思決定と問題解決における情報の利活用を中心に学ぶ。具体的には知識ベース技術、意思決定支援システム、エキスパートシステム、ナレッジマネジメントなどの先端的活用方法、経営情報を活用した顕在・潜在する問題の明確化、種々の問題解決技法による情報のビジュアル化と情報共有などについて理解を深める。
	プログラミング基礎	スマートフォンやコンピュータ上で動作するアプリケーションプログラム（アプリ）は、今や日常生活でも欠かせない道具となっている。本科目では、プログラミングの初心者を対象に、簡易言語のSCRACHを用いることで、アプリを開発する一連の手続きを体験する。この体験的な学修を通して、開発したプログラムを動作させることの楽しさや、想定通りにプログラムが動作しない時の対処法を経験し、情報を専門とする学生に求められるプログラミングに関わるメンタリティを醸成する。
	プログラミングⅠ	情報を専門とする学生にとって基本的なコンピュータ利用法の一つにプログラミングがある。プログラミングとは、一連の処理手順であるアルゴリズムを、コンピュータで実行できるようプログラミング言語で記述することである。本科目では簡易言語のSCRACHを用いた実習を通して、アルゴリズムをプログラミング言語で記述する方法を学ぶ。第一歩として、逐次処理および条件分岐処理を用いた構造化プログラミングのアルゴリズムを、更に次の一歩として、探索や並び替え等の基本的なアルゴリズムを修得する。
	プログラミングⅡ	情報を専門とする学生にとって基本的なコンピュータ利用法の一つにプログラミングがある。それは、一連の処理手順を、コンピュータで実行できるようプログラミング言語で記述することである。主に、ビジュアルプログラミングなどで論理的思考を経験している学生を対象に、実用的に利用されているプログラミング言語で記述を行う方法を学ぶ。その第一歩として、逐次処理および条件分岐処理などを理解できることを目指す。
	経営科学Ⅰ	現代の企業経営では、日々の経営活動において発生するさまざまな問題に対して、数学的あるいは情報科学的手法を用いて分析・解決するアプローチがとられている。また、これは企業の経営活動のみならず、行政機関等の組織的な活動を行っている各種の分野にも当てはまる。本授業では、近年、人工知能やデータサイエンスの基盤の一分野としても再注目されている数値最適化の各種手法について学び、数学的／情報科学的問題解決アプローチへの理解を深める。

## 授 業 科 目 の 概 要

(経済情報学部経済情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	
専 門 選 択 科 目	基 礎 科 目	経営科学Ⅱ	現代の企業経営では、日々の経営活動において発生するさまざまな問題に対して、数学的あるいは情報科学的手法を用いて分析・解決するアプローチがとられている。また、これは企業の経営活動のみならず、行政機関等の組織的な活動を行っている各種の分野にも当てはまる。本授業では、コンピュータによって発生させた疑似乱数を用いたシミュレーション（モンテカルロ・シミュレーション）により、確率モデルと呼ばれるいくつかのモデルに対して分析を行うことを通して、数学的／情報科学的問題解決アプローチへの理解を深める。
		アルゴリズムとデータ構造	「アルゴリズム」を一言で述べるならば、コンピュータを用いた問題解決のための計算手順ということができ、また、「データ構造」についてはアルゴリズムを効率的に作用させるためのデータの格納形式であるといえる。AI (Artificial Intelligence) やIoT (Internet of Things) の活用が進み、Society 5.0の実現に向けて社会が変化しようとする今、社会的課題解決には更に情報技術、とりわけプログラミング技術が求められる。本授業では、そのプログラミング技術を支えるアルゴリズムとデータ構造について理解を深めることを目標とする。
		経営管理論Ⅰ	フアョールというフランス人経営者は、「管理」という職能の独自性について指摘し、それが「計画－組織－命令－調整－統制」という過程からなるものと述べた。その後、経済発展にともなって、経営管理の重要性が広く認識されるようになった。この講義では、まずどのようにして経営管理という考え方が生まれ、それが発展してきたか。さらに、環境適応の管理という視点から、経営組織、経営戦略、経営資源の管理などの問題についてみていく。
		経営管理論Ⅱ	経営管理論Ⅱでは、前期の学習を基礎として「変革の管理」と「現代の経営管理と展望」というテーマに即して講義を進める。まず、組織を支える人的要因に関する問題としてモチベーション、リーダーシップ、企業文化の問題についてみる。次いで、日本企業にみられる経営管理面での特徴である日本的経営について解説し、日本企業の経営管理に対する理解を深める。また日本企業の国際化の論理などについても解説する。
		情報サービスマネジメントとシステム監査	ユーザに情報サービスを適切に提供するための情報サービスマネジメントおよび情報システムのガバナンス、マネジメント、コントロールの適切性等について保証・助言を与えるためのシステム監査に関する知識を習得する。特に、情報サービスマネジメントについてはITILに示されるベストプラクティスについて学習し、システム監査についてはシステム監査基準に基づいた監査活動について理解する。
		マーケティング論Ⅰ	本講義では、マーケティング論の基礎概念を学ぶ。マーケティングは、市場を起点に物事を発想する。なぜなら、メーカーが生産した商品をいかに売るかを考える（販売概念）のではなく、顧客満足をその目標に掲げ、お客にリピートしてもらえるかどうかを課題としているからである。マーケティングという考え方がどのようにして生まれたのか、マーケティングと販売の概念的な違いは何か、マーケティング独特の発想を基礎概念を整理しながら講義する。
		マーケティング論Ⅱ	本講義では、マーケティング論Ⅰで学んだ基礎概念から一歩進んだ応用部分（実践への適応）を講義する。マーケティングの基本概念である4P（製品、価格、流通チャネル、販売促進）をはじめ、ポーターの競争戦略、SWOT分析、市場地位別のマーケティング戦略等、マーケティング戦略に関わる概念を具体例を挙げて講義する。さらに、ミクロな視点でのマーケティング活動として、「営業の役割」や「営業マンの管理」についても講義する。講義を通じて、マーケティング論と現実社会での企業活動を理解することを目標としている。

## 授 業 科 目 の 概 要

(経済情報学部経済情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 選 択 科 目	基礎科目	
	マイクロ経済学 I	<p>マイクロ経済学とは、家計や企業といった経済活動を行う主体の行動がどのような目的のもとにとられ、その結果がどうなるのかを考える学問である。この講義は、経済学の基本となる事項について広く浅く学ぶことを目的としている。「浅く」とはいえ、公務員試験や資格試験の経済の問題には十分に対応できる内容となっている。需要と供給の関係を理解し、市場で決まる価格と取引量との関係を、実際の経済事象に応用して説明する力を養うことを目標とする。</p>
	マクロ経済学 I	<p>マクロ経済学とは、国全体の経済活動を表す指標を取り上げ、景気を改善するには、どのような政策が有効であるかを考える学問である。この講義は、経済学の基本となる事項について広く浅く学ぶことを目的としている。「浅く」とはいえ、公務員試験や資格試験の経済の問題には十分に対応できる内容となっている。財政政策、金融政策の効果や問題点を、IS-LM分析などマクロ経済学の基本的な枠組みによって説明し、新聞の経済記事を理解できるようになることを目的とする。</p>
	計量経済学 I	<p>計量経済学の基礎となる統計学的な知識を学ぶ。具体的には、点推定、区間推定、回帰分析といった統計的な仮説検定手法やその意味について、その前提となる知識も含めて講義する。講義を通じて、こうした基礎的な統計学的手法が、ある問題意識に対してどのような検証を可能にし、その際にどのようなデータを必要とするのかを理解できる。これらについて理解を深め、より発展的な分析手法を理解するための土台を形成する。</p>
	経済データ分析 I	<p>1年次の科目であるコンピュータ基礎演習 I とコンピュータ基礎演習 II の理解を前提とし、主にインターネットで検索収集可能な経済や経営に関する情報の活用法について学ぶ。I では、国内総生産・消費者物価指数・失業率などいくつかの経済データを取り上げ、その分析を行ってもらおう。また、それらのデータ間にオウケンの法則・フィリップス曲線が観られることを確認する。その際、1年次に学んだワード・エクセルは十分に理解しているものとする。</p>
	データベース I	<p>企業活動において発生する各種のデータは経営情報システムで管理されるが、その中核をなすのがデータベースシステムである。つまり、売上・在庫・顧客・人事といったさまざまなデータが矛盾なく蓄積され、必要な時に必要な形で情報が提供される仕組みをデータベースと呼んでいる。本授業では、このように企業等でも日常的に用いられているデータベースの一種であるリレーショナル・データベースとそこで用いられるデータベース言語について学ぶことを目的とする。</p>
	機械学習 I	<p>人工知能に利用されている機械学習の仕組みとコンピュータ上で実現するための知識について体験的に学習する。まず、様々な機械学習手法の概要について学習した後に、教師あり学習としての分類問題について取り組み、実際の画像データ等を用いて学習させ、その性能を評価する。</p>
情報サービス論	<p>現代社会における情報サービスの歴史や理念を踏まえて、市民のための情報サービス機関である図書館で提供される情報サービス（レファレンスサービス、カレントアウェアネスサービス、レフェラルサービス、利用者教育、発信型情報サービス等）について解説する。また、情報検索のしくみや手法を学び、様々な分野のレファレンスブックやデータベースなどの各種情報源の種類や利用、検索方法について解説する</p>	

## 授 業 科 目 の 概 要

(経済情報学部経済情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専門 選択 科目	情報サービス演習 I	情報検索のための演習を事項調査と文献探索のそれぞれについて印刷メディア、電子メディア双方を使いながら行う。適切な情報検索を行うため、情報サービスの設計、デジタル情報源の種類と検索エンジンについて学び、レファレンスブックの評価を行う。言語情報、事物情報、歴史情報、地理情報、統計情報、人物情報についての情報探索を実践的に行う。
	ビジネス英語 I	本講義では、ビジネスの場面で必要な英会話力の育成をめざす。また、会話や文章作成に必要な語彙・文法の補強にも努める。特にビジネス英語 I では、対話文の聞き取りや会話練習を通して、職場での同僚とのやり取り、電話対応、様々な接客対応、クレーム対応などに必要な英語表現を学ぶ。各ビジネスシーンを導入する際には、背景となる英語圏のビジネス事情について説明し、対話文の聞き取りや会話練習に必要な文法項目の学習を行う。
	ビジネス英語 II	本講義では、ビジネスの場面で必要な英会話力の育成をめざす。また、会話や文章作成に必要な語彙・文法の補強にも努める。特にビジネス英語 II では、対話文の聞き取りや会話練習を通して、海外からのゲストの出迎え、スケジュールの確認や滞在中のお世話について、さらに自社新商品の企画、販売促進や会議の進め方に必要な英語表現を学ぶ。各ビジネスシーンを導入する際には、背景となる英語圏のビジネス事情について説明し、対話文の聞き取りや会話練習に必要な文法項目の学習を行う。
	プログラミングⅢ	基本的なプログラミング方法を学んだ学生を対象に、更に発展的な内容を学ぶ。計算処理、入出力操作などの実用的な処理方法を学び、身近な問題に対して自分で解決のためのアプローチやプログラムの設計を考え、プログラミング言語を用いて解決できる方法を学ぶ。また、問題に対するアプローチ方法や記述したプログラムを自ら説明できる能力を培う。
	プログラミングⅣ	プログラミング言語を用いて基本的な問題解決ができる学生を対象に、より専門的なプログラミングする内容を学ぶ。近年、オープンデータが活用されてきており、インターネット上で共通的に利用されているデータフォーマットと呼ばれるものを基にしたファイルのデータが公開されることが多くなっている。そのようなデータフォーマットのファイルなどを活用し、研究などに活用できる視覚的に理解しやすい出力表現方法を学ぶ。
	マイクロ経済学 II	マイクロ経済学 I では、市場の調整機能を中心に学んだが、II ではその内容を踏まえた上で、市場がうまく機能しない市場の失敗を中心に取り上げる。具体的には情報の非対称性により生じるモラルハザードや逆選択などの問題、公共財、外部性の問題を取り上げる。
基礎 科目	マクロ経済学 II	マクロ経済学 I の内容を踏まえた上で、近年のマクロ経済学における動向を概観し、成長理論、オープンマクロ経済について中心に学ぶ。成長理論に関しては、経済成長の概念を理解した上で、近年の日本の経済成長を踏まえつつ、代表的な成長理論を学ぶ。オープンマクロ経済については国際収支の仕組みを理解し為替レートの決定要因について学ぶ。

## 授 業 科 目 の 概 要

(経済情報学部経済情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 選 択 科 目	計量経済学Ⅱ	計量経済学Ⅰの授業内容を発展させ、より高度な分析手法について紹介する。授業では最小二乗法の基礎、および結果の解釈について改めて理解したのち、最小二乗法の仮定が成り立たない場合の分析手法や、その他の問題が発生した際の対応、より発展的な話題について学ぶ。これによって、オーソドックスな計量手法を用いた実証分析における趣旨と結果の解釈について、受講者自身が読み解けるようになることを目指す。適宜、コンピュータを用いた演習を行い、自らの手で実証分析する能力も伸長する。
	経済データ分析Ⅱ	経済データ分析Ⅰの理解を前提とし、主にインターネットで検索収集可能な経済や経営に関する情報の活用法について学ぶ。Ⅱでは、日本の戦後所得平均の推移、高額所得者分布、公示土地価格分布などいくつかの経済データを取り上げ、その分析を行う。さらに、日本あるいは海外の株式市場の日時データを入手し、その値動きと実体経済の関係を観測することにより、金融市場と実体経済の関係を理解する。
	公共経済学	公共経済学は、広義には財政学や厚生経済学をも含む幅広い学問領域を対象とするが、本講義では、公共経済学の中核となる、市場による調整機能が必ずしも最適資源配分を達成しないといういわゆる「市場の失敗」の問題と、市場による所得分配は必ずしも公平性と社会的倫理基準を満たすとは限らないことから生じる、政府部門による「所得の再分配」の問題、そして、民間経済に対する政府部門の介入に関するメルクマールとしての「公共財の理論」に関して講義し、基礎的事項に関して理解する。
	労働経済学	労働経済学では、ミクロ経済学の基礎的理論に基づき、労働需要と労働供給が何で決まるのか、さらに、労働市場において賃金水準や雇用量がどのように決まるのかについて学ぶ。この基本理論を応用して、女性や高齢者の労働力活用、若年雇用、労働形態の多様化など、現在の様々な雇用問題について解説し、解決策について考えていくことを予定している。
	ゲーム理論	ゲーム理論では、複数の競合する企業間の行動など複数の主体が関連する状況での意思決定等を取り扱う学問分野であり、政治学や法学、心理学、生物学、工学など各種の学問分野と関連があるが、とりわけ、経済学との関連が深い。ゲーム理論を大きく分けると非協力ゲームと協力ゲームの分野に分かれるが、本授業では非協力ゲームの基礎を学ぶことを目的とし、基本的な2人ゼロ和ゲームから理解を深め、複数人がプレイヤーとなるゲームへ展開し、経済学への応用についても触れる。
	ITプロジェクトマネジメントⅠ	企業活動における情報システムの役割と機能、それらの情報システムがどのようなプロセスで開発されているかについて理解し、情報システムの開発プロジェクトおよびプロジェクトマネジメントに関する幅広い知識を習得する。特に、プロジェクトマネジメントについて、プロジェクトの特性、プロジェクトマネジメントを構成するプロセス群及び知識エリアの概要について理解する。
	ITプロジェクトマネジメントⅡ	情報システムを活用した経営戦略の立案からシステム化の流れを理解し、さらに情報化プロジェクトを円滑に進めるためのプロジェクトマネジメントプロセスに関する基本的な知識を習得する。特に、情報システム開発プロジェクトのプロジェクトマネジメントに利用されているツール・技法やアウトプットについて、ケーススタディを用いて体験的に学習する。

## 授 業 科 目 の 概 要

(経済情報学部経済情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 選 択 科 目	消費者行動論	消費者行動論では、消費者の意思決定に焦点を当てた基礎概念を整理する。あわせて消費者行動を広い概念でとらえた消費の問題についても講義する。消費者が商品を選択するまでには、商品に対する注意、関心からはじまり、その商品が欲しいという欲望、そして、記憶、行動という意思決定プロセスを経るとされている。企業のマーケティング担当者は、このような消費者の知覚と意思決定プロセスのどこがボトルネックとなって、商品の売上が伸びないのかを考えている。また、消費者行動を大きな視点で見ることで消費の動きにも注目する。消費者行動論では、消費者を理解すること、そのための理論と方法を講義する。
	経営組織論	現代社会を構成する基礎的要素である「組織」を理解することを目的として、この講義では組織のもつ意義や、特に経営組織に関する諸問題領域についてみるとともに、経営組織研究の大きな流れとそれぞれの研究相互の関連性、組織の成長モデルについて解説する。次に、組織構造の基本的な設計原理やそれぞれの組織構造の特徴、さらに経営戦略と組織構造の適合に関する問題についても説明する。
	ビジネス戦略	経営学分野に「戦略」という概念が登場して半世紀以上が経過し、経営戦略は企業経営上、もっとも注目を集める問題といえる。この講義では、まず、経営戦略という考え方とその意義について理解し、この半世紀以上の間に登場してきたさまざまな経営戦略に関する理論の変遷について、その時々歴史的な状況と併せて解説する。それから、経営戦略の問題と切り離して考えられない組織との問題などについても説明する。
	組織行動論	われわれはさまざまな組織と関わりをもちながら日々の生活をおくっている。この講義では、人間と組織との関わりに焦点をあて、組織に参加する人間の行動をとることによって組織について考える。組織の中での人間の行動とはどのようなものなのか、そして1人ひとりの人間が組織の中でどのように振る舞うことが必要なのか、またどのような行動がどのような結果をもたらすのかといった
	人的資源管理	人的資源管理 (human resource management) とは、組織の目標を達成するために必要とされる経営資源の1つである人的資源を活用することであり、そのための組織の制度、設計や運用を指す。授業では、その定義や概念を理解し、様々な事例から現代社会における人的資源管理の課題を考察し、業績を上げるための社員への動機付けやモチベーション向上等、課題解決のための方向性を探
	ビジネス・ ケーススタディ	本講義の目的は、ビジネスにおいて直面する問題を解決する能力を身につけることである。そのため、企業の事例を検討することにより、他の講義で学んだ経済・経営に関する知識がどのようにビジネスに活かされているかを明らかにしていく。講義の中では、様々な専門領域を持つ教員からケースのレクチャーを受けたうえで、個人ワーク・グループワーク、ならびに発表を行う。
	社会データ分析	IT (情報技術) の発展と共に、人口動態や環境指数、生活調査や世論調査、その他様々な社会データが整備され、利用できる環境が整ってきている。データは様々な形式で提供されているが、無機質で分かり難い数値データから、必要で分かり易い情報を得る、ということが重要である。本講義では、様々な社会データの分析を通して、データから情報を得る具体的な考え方や手法を学ぶ。更に、従来の技術では処理が難しかった大規模なデータ群「ビッグデータ」の扱い方に取り組む。

展  
開  
科  
目

## 授 業 科 目 の 概 要

(経済情報学部経済情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	
専 門 選 択 科 目	展 開 科 目	金融データ分析	IT（情報技術）の発展と共に、株価、株価指数、商品先物指数、為替レート、様々な金融データが整備され、利用できる環境が整ってきている。これらのデータの分析を行い、時系列データの分析手法の基本と応用を学ぶ。また、長期間で数多くの銘柄を扱うとなると、データ量は非常に大きなものとなる。このような状況に対処できるようにするため、従来の技術では処理が難しかった大規模なデータ群「ビッグデータ」の扱い方に取り組む。
		計量社会科学Ⅰ	計量社会科学では、経済学・経営学・教育学・政治学・公共政策学・心理学・社会学など幅広い領域における、現実世界の様々な問題を調査し、問題を理解し、解決法を探る。これは、近年のインターネットによってもたらされたデータ革命とコンピュータの技術発展により大きく前進している分野である。本講義では、『R』言語を道具として使い、実際の研究で用いられたデータ：労働市場における人種差別問題・最低賃金と失業率・初期教育における少人数クラスの有効性などを題材として「因果関係」について議論する。
		計量社会科学Ⅱ	計量社会科学Ⅰの理解を前提に、戦時における民間人の被害などを題材として「測定」、アメリカ大統領選挙などを題材として「予測」について議論する。さらに、『ザ・フェデラリスト』の著者をめぐる論争に関するテキストデータ、ルネサンス期フィレンツェにおける婚姻関係のネットワークデータ、ロンドンにおける1954年のコレラ発生に関する空間データなどを題材として「探索的データ分析（発見）」について議論する。
		金融論Ⅰ	本講義では、現代における金融取引の初歩的な知識を会得し、その意義を正しく理解することを目的としている。まず、金融の意味と金融システムには間接金融と直接金融が存在することを学んだ上で、日本の金融システムで多くを占める間接金融というシステムについて詳しく学ぶ。間接金融では、その仲介となる銀行の果たす役割が大きい。そのため、銀行の役割や、金融当局が銀行に対してどのような介入を行っているかについても学ぶ。また、貨幣の役割についても学ぶ。受講生には、毎回課題に取り組みせ、理解度を把握する。
		金融論Ⅱ	本講義では、金融論Ⅰの内容を踏まえ、近年日本でも比重が高まっている直接金融について中心的に学ぶ。直接金融では、株式市場や債券市場といった金融市場のしくみが大きな影響を与える。そこで、これらのしくみを学ぶとともに、投資家の投資行動についての代表的な理論を学ぶ。また、国際金融に関連し、為替レートや通貨危機についても学ぶ。さらに、金融政策の理論をしっかりと理解させた上で、近年の金融政策の効果について解説を行う。
		国際経済	現代では、経済取引は単に国内にとどまらず国境を越えて行われており、国際取引はいかなる経済にとっても不可欠なものである。国際経済学は、このような国際取引を対象とし、国境を越えた取引がなぜ行われ、どのように取引され、またそれぞれの国および個人がどのような影響を受けるかを分析する学問である。本講義では、そのための基礎となる国際貿易理論や経済成長理論を学ぶ。また、国内の雇用への影響にも注意を払い、暮らしとの関わりをより広く考える。

## 授 業 科 目 の 概 要

(経済情報学部経済情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	
専 門 選 択 科 目	展 開 科 目	データベースⅡ	企業活動において発生する各種のデータは経営情報システムで管理されるが、その中核をなすのがデータベースシステムである。つまり、売上・在庫・顧客・人事といったさまざまなデータが矛盾なく蓄積され、必要な時に必要な形で情報が提供される仕組みをデータベースと呼んでいる。本授業では、データベースⅠを前提として、リレーショナル・データベースについての基礎理論やデータベースの設計、トランザクション処理、障害への対応など理論から運用までについて学ぶ。
		機械学習Ⅱ	人工知能に利用されている機械学習の仕組みとコンピュータ上で実現するための知識について体験的に学習する。機械学習Ⅰに続き、教師あり学習としての回帰問題および教師なし学習としてのクラスタリングについて取り組み、実際の画像データ等を用いて学習させ、その性能を評価する。
		財政学	我が国は少子高齢化や債務増加といった財政上の難問を抱えている。財政の問題を考える上では、財政の制度・仕組み、財政の役割・意義、財政学の理論に関する総合的な理解が欠かせない。本授業ではこうした内容を講義しつつ現在の課題の論点を整理し、受講者が我が国の財政問題に関して考察し、必要な対応策や将来の政府活動の在り方について展望する力を養う。
		経済政策論	経済政策は、国の方向性を決める重要な要素であり、正しい政策選択によって国民福祉の向上を実現させねばならない。こうした観点から、市場への政府介入などのミクロ政策、経済成長実現に向けたマクロ政策、および効率性・公平性に基づく税制の執行による所得再分配政策等について説明し、経済が正しい道筋で成長・発展するための条件を明らかにする。
		情報サービス演習Ⅱ	情報検索のための演習を事項調査と文献探索のそれぞれについて印刷メディア、電子メディア双方を使いながら行う。図書館のOPACや総合目録、横断検索などを使用して、図書、逐次刊行物、新聞・雑誌記事の所蔵情報や書誌情報についての情報検索を実践に行う。二次資料の作成方法の実際、発信型情報サービスの実際、レファレンス事例の作成方法について演習する。
		流通論Ⅰ	本講義では、流通論の基礎概念を講義する。流通は、生産と消費の懸隔を架橋する役割を果たしている。生産と消費という2つの部門を結びつける流通部門は、従来、商業活動により結びつけられてきた。生産と消費の間で取引を仲介する商業者は、どのような社会的な役割を果たしてきたのであろうか。商業の必要性、流通の機能を学ぶことで流通論の理論的な枠組みを整理する。次に、様々な小売業態の特徴（新業態のイノベーション）、わが国における流通構造の変化、そしてわが国独特の商慣行について講義する。
		流通論Ⅱ	本講義では、近年の流通の動きを理解することを目標とする。生産と消費の間を取り持つ流通は、生産部門と消費部門の変化の影響をダイレクトに受ける。生産部門では、グローバル化が見られ、消費部門では消費の成熟化が進み、両者をつなぐ流通は、川上と川下のダイナミックな動きに適合していかなければならない。近年、成長著しいコンビニエンスストアにしても、その成長は消費の変化と商品調達革新の実現したからに他ならない。急速に成長する流通企業を事例として挙げながら、流通の進化（eコマースやPB開発など）について講義する。

## 授 業 科 目 の 概 要

(経済情報学部経済情報学科)

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容
専 門 選 択 科 目  展 開 科 目	マーケティング・ リサーチ	マーケティングでは、「市場（マーケット）」を知る、理解することを必要とする。そのために、定量的データ・定性的調査を用いたマーケティング・リサーチの手法を学ぶことが必要となる。本講義では、アンケート調査などの作成などの数値（データ）による分析や、アンケート調査では見抜けない顧客のニーズを探るための、インタビュー調査などのヒアリング調査などの手法を学ぶ。
	ネットワークと 情報セキュリティ	情報ネットワークの基本的な仕組みおよび情報ネットワーク上で提供される様々なサービスについて理解し、さらにこれらのサービスを安全に利用・提供するための情報セキュリティ技術およびマネジメント手法についての知識を習得する。特に、TCP/IPの構成・経路制御・誤り制御などの情報ネットワーク技術、暗号化方式・ファイアウォールなどの情報セキュリティ技術について理解する。
	ネットワーク科学と経済Ⅰ	我々の身の回りには、インターネット・人間関係・企業間の取引関係・食物連鎖・道路網など数多くのネットワークが存在する。そのつながり方は複雑であるが、ある程度の秩序があり、本講義ではその特徴を探る手法を扱う。まず、ネットワークデータの表現法と扱い方、ネットワークの最短距離、ネットワーク構造の諸指標と中心性を導入し、ネットワーク構造の分析手法を学ぶ。
	ネットワーク科学と経済Ⅱ	複雑系ネットワークⅠの理解を基に、ネットワークの類似性、統計的ネットワーク分析を理解した上で、社会ネットワークの調査分析法、ソーシャルメディア・ネットワーク分析、複雑ネットワークのシミュレーション、ネットワーク描画について学ぶ。